

## 「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

|          |              |                   |       |
|----------|--------------|-------------------|-------|
| 機 関 名    | 早稲田大学        | 整理番号              | R04   |
| プログラム名称  | 実体情報学博士プログラム |                   |       |
| プログラム責任者 | 橋本 周司        | プログラム<br>コーディネーター | 菅野 重樹 |

### ◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

#### [総括評価]

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

#### [コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、先見力・構想力・突破力を涵養するカリキュラムを導入しており、それをプログラムの基本とし、マルチラボディシプリン構想を基に研究室ローテーションを進めるとともに、異分野融合の場と機会の提供としての「工房」を設計、企画運営し、その場においてリーダーとしての研鑽を積ませるなど、学位プログラムの確立に向けて積極的に取り組んでいる点は高く評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、フィールドワークを重視して実社会での課題を体験させるとともに、座学とフィールドワークを組み合わせたプログラムを通じて、多種多様な経験を積ませる努力をしている点は評価できる。また、学生のほとんどが企業への就職希望であることは評価でき、産学官民連携で指導していることが成功につながっているように思われる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、L3以上の学生に海外アドバイザーを配置していることに加え、本プログラム開催の国際シンポジウムでの発表や海外からの招聘研究者との討論等によりグローバルリーダーの育成に努めている点等は評価できる。

優秀な学生の獲得については、現在在籍中の学生の優秀さは評価に値する。一方、充足率が低く、本プログラムへの応募者が少ない点は改善が望まれる。また、早稲田大学出身の優秀な学生の獲得には成功している一方で、他大学からの入学、更には社会人経験者の採用等といったダイバーシティ面では実績が不十分であり、今後の充実に期待する。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、「実体情報学」自体がまだ体系化されたものではないため不明な点もあるが、L1～L5までの期間で、従来の専門に加えて実体情報学としての資質を備えた学生を育成している点は評価できる。

事業の定着・発展については、「工房」の活用など教育面で一定の方向性が見えてきており、大学としても定着・発展を視野に入れている点は評価できるものの、資金面についてはまだ十分に検討が進んでいないように見受けられるので、早期の施策立案を期待する。